

平成22年3月期 第3四半期決算短信(非連結)

平成22年2月9日

上場取引所 JQ

上場会社名 株式会社ゲオディノス
 コード番号 4650 URL <http://www.geodinos.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 清水 松生

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 吉住 実

四半期報告書提出予定日 平成22年2月15日

TEL 011-241-3951

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	4,812	17.6	△31	—	△133	—	△118	—
21年3月期第3四半期	4,091	—	△192	—	△290	—	△1,554	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	△27.63	—
21年3月期第3四半期	△362.85	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	10,210	2,208	21.6	515.63
21年3月期	8,936	2,312	25.9	539.98

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 2,208百万円 21年3月期 2,312百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年3月期	—	0.00	—		
22年3月期 (予想)				5.00	5.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,400	31.5	220	—	70	—	70	—	16.34

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、4ページ定性的情報・財務諸表等4. その他をご覧ください。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第3四半期	4,303,500株	21年3月期	4,303,500株
② 期末自己株式数	22年3月期第3四半期	20,048株	21年3月期	20,048株
③ 期中平均株式数(四半期累計期間)	22年3月期第3四半期	4,283,452株	21年3月期第3四半期	4,283,452株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性がありますことをご承知お願います。

定性的情報・財務諸表等

1. 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、経済対策の効果もあって、個人消費の一部に持ち直しの動きがみられましたが、雇用不安や所得の減少の影響もあり、節約志向がさらに強まるなか、生活必需品でない娯楽支出は引き続き抑制傾向がみられました。

このような状況下において、当社は、10月1日付にて親会社株式会社ゲオの連結子会社である株式会社ゲオフロンティアよりGAME事業及びカフェ事業を、株式会社ゲオフィットネスよりフィットネス事業を譲受し、業容の拡大を図りました。

その結果、売上高は48億12百万円（前年同四半期比17.6%増）、営業損失は31百万円（前年同四半期は営業損失1億92百万円）、経常損失は1億33百万円（前年同四半期は経常損失2億90百万円）、四半期純損失は1億18百万円（前年同四半期は四半期純損失15億54百万円）となりました。

当第3四半期累計期間における営業実績を事業部別に示すと次のとおりであります。

事業部	当第3四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	前年同四半期比 (%)
ディノス事業部 (千円)	1,758,973	0.1
（ボウリング事業） (千円)	(819,313)	(△8.8)
（シネマ事業） (千円)	(677,026)	(17.6)
（FAカラオケ事業） (千円)	(162,204)	(△6.1)
（FAその他アミューズメント事業） (千円)	(100,429)	(△9.4)
GAME事業部 (千円)	2,311,021	2.1
フィットネス事業部 (千円)	514,925	—
カフェ事業部 (千円)	159,644	—
その他 (千円)	68,355	△3.3
合計 (千円)	4,812,920	17.6

(注) 1. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2. 平成21年10月1日付の組織変更に伴い、アミューズメント施設部門のゲーム部門をGAME事業部に、映画興行部門をディノス事業部のシネマ事業に区分及び名称を変更しております。また、アミューズメント施設部門のカラオケ部門、その他部門をそれぞれ、ディノス事業部のFAカラオケ事業、FAその他アミューズメント事業に名称変更しております。前年同四半期比 (%) は参考であります。

3. 「FAその他アミューズメント事業」は、ビリヤード場・バッティングセンター・マンガ喫茶・ダーツ等の売上であります。

4. 「その他」は、土地・建物の賃貸収入等の売上であります。

(ディノス事業部)

ディノス事業部につきましては、ボウリング事業において、店舗閉鎖（スガイコトニボウル、平成21年3月31日）がございましたが、ディノスボウル札幌麻生がオープン（平成21年11月11日）したこと、シネマ事業において、「ハリー・ポッターと謎のプリンス」、「エヴァンゲリオン新劇場版：破」、「マイケル・ジャクソン THIS IS IT」をはじめ、話題の3D映画「アバター」等のヒットが寄与したことなどにより、売上高は17億58百万円（前年同四半期比0.1%増）となりました。

(GAME事業部)

GAME事業部につきましては、店舗閉鎖の影響（主にスガイコトニゲーム、平成21年3月31日）がございましたが、道外のゲオパーク4店舗及びゲオショップ内併設のゲームコーナー（以下「リトルパーク」という。）を譲受したこと、ゲオパーク旭川買物公園4条店（平成21年7月18日）・ゲオパーク八街店（平成21年12月19日）のオープン及びリトルパーク事業の展開（平成21年12月31日現在89箇所）を推進したことなどにより、売上高は23億11百万円（同2.1%増）となりました。

(フィットネス事業部)

フィットネス事業部につきましては、道外のゲオフィットネス等15店舗を譲受したことなどにより、売上高は5億14百万円となりました。

(カフェ事業部)

カフェ事業部につきましては、道外のゲオカフェ8店舗を譲受したこと、ゲオカフェ札幌狸小路店がオープン（平成21年12月10日）したことなどにより、売上高は1億59百万円となりました。

2. 財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期会計期間末の総資産は102億10百万円となり、前事業年度末に比べ12億74百万円増加しました。これは主に、事業譲受などに伴い、建物等固定資産の増加（前期末比12億8百万円増）及び売掛金等流動資産の増加（同65百万円増）があったことによるものであります。

負債については、80億2百万円となり、前事業年度末に比べ13億78百万円増加しました。これは主に、事業譲受などに伴い、1年以内返済予定の長期未払金等流動負債の増加（同7億17百万円増）及び長期未払金等固定負債の増加（同6億61百万円増）があったことによるものであります。

純資産については、22億8百万円となり、前事業年度末に比べ1億4百万円減少しました。これは主に、株主資本の減少（同1億18百万円減）があったことによるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ1億68百万円減少し、3億67百万円（前年同四半期会計期間末残高6億52百万円）となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、5億84百万円（前年同四半期は1億65百万円）となりました。これは主に、非資金費用である減価償却費が5億36百万円及び仕入債務の増加額が1億20百万円あったことなどによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、2億17百万円（前年同四半期は1億46百万円）となりました。これは主に、差入保証金の回収による収入が96百万円ありましたが、有形固定資産の取得による支出が3億21百万円あったことなどによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は5億34百万円（前年同四半期は3億86百万円）となりました。これは主に、長期借入による収入が7億50百万円ありましたが、長期借入金の返済による支出が10億83百万円、社債の償還による支出が65百万円、長期未払金の返済による支出が1億2百万円並びにリース債務の返済による支出が33百万円あったことなどによるものであります。

3. 業績予想に関する定性的情報

平成22年3月期の通期の業績予想につきましては、平成21年11月5日に公表した「業績予想の修正に関するお知らせ」から変更はございません。

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、事業年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

(3) 継続企業の前提に関する重要事象

財務制限条項

当社は、平成17年3月25日にディノス苫小牧出店資金を調達するため金融機関5社からなるシンジケート団との間で、シンジケートローン契約を締結し、平成17年4月8日に8億50百万円を借入れており、平成21年12月末現在4億67百万円の借入残高があります。

この契約には、当社の年度決算期における貸借対照表における純資産の部の金額や、各年度決算における損益計算書の営業利益、経常利益を基準とした財務制限条項が付加されております。

平成21年3月期末において、これらの借入金に対して財務制限条項に抵触している事実が発生しておりますが、シンジケートローンに関する財務制限条項について、シンジケート団においては、当該条項を適用しない旨の合意を得られており、書面で承諾を得ております。

なお、親会社の株式会社ゲオにおいては、当社が策定した事業計画の達成に向けて、営業・販促面において可能な限り全面的に支援する方針であり、資金面についても相互に緊密な連携を図り、資金調達活動を支援する方針である旨、取締役会において決議されております。

5. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成21年12月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	367,205	525,551
売掛金	153,365	82,279
有価証券	—	11,264
商品及び製品	37,827	11,451
原材料及び貯蔵品	70,773	23,337
その他	164,843	72,702
貸倒引当金	△2,135	△288
流動資産合計	791,879	726,299
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	3,754,363	3,062,439
アミューズメント機器（純額）	694,228	738,986
土地	2,739,860	2,739,860
その他（純額）	490,089	247,978
有形固定資産合計	7,678,541	6,789,264
無形固定資産	35,164	12,684
投資その他の資産		
差入保証金	1,313,671	1,014,545
その他	391,727	393,728
投資その他の資産合計	1,705,399	1,408,274
固定資産合計	9,419,105	8,210,223
資産合計	10,210,984	8,936,522

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成21年12月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	222,980	102,679
1年内償還予定の社債	57,500	75,000
1年内返済予定の長期借入金	1,533,232	1,409,284
1年内返済予定の長期未払金	142,813	77,793
未払法人税等	12,632	9,949
賞与引当金	8,642	7,620
ポイント引当金	5,250	7,000
店舗閉鎖損失引当金	—	54,623
その他	896,638	418,591
流動負債合計	2,879,688	2,162,541
固定負債		
社債	15,000	62,500
長期借入金	3,172,193	3,630,136
長期未払金	1,165,842	129,723
退職給付引当金	153,058	145,412
その他	616,546	493,210
固定負債合計	5,122,640	4,460,982
負債合計	8,002,328	6,623,523
純資産の部		
株主資本		
資本金	948,775	948,775
資本剰余金	1,128,995	1,128,995
利益剰余金	140,290	258,627
自己株式	△10,844	△10,844
株主資本合計	2,207,216	2,325,554
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,439	△12,555
評価・換算差額等合計	1,439	△12,555
純資産合計	2,208,655	2,312,999
負債純資産合計	10,210,984	8,936,522

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	4,091,297	4,812,920
売上原価	3,728,793	4,252,827
売上総利益	362,504	560,092
販売費及び一般管理費		
給料	158,029	186,177
賞与引当金繰入額	929	3,305
退職給付費用	4,470	5,282
租税公課	84,518	85,230
その他	307,395	311,316
販売費及び一般管理費合計	555,342	591,312
営業損失(△)	△192,838	△31,219
営業外収益		
受取利息	4,839	3,443
受取配当金	1,444	1,670
アミューズメント機器売却益	15,968	1,340
協賛金収入	—	3,528
その他	13,068	3,423
営業外収益合計	35,320	13,406
営業外費用		
支払利息	107,774	93,256
アミューズメント機器処分損	20,091	14,259
その他	5,116	7,765
営業外費用合計	132,982	115,281
経常損失(△)	△290,500	△133,095
特別利益		
固定資産売却益	206	17
投資有価証券売却益	287	403
ポイント引当金戻入額	—	1,750
店舗閉鎖損失引当金戻入額	—	402
特別利益合計	494	2,573
特別損失		
固定資産除却損	1,749	4,713
投資有価証券売却損	—	98
投資有価証券評価損	8,573	—
減損損失	1,200,000	—
店舗閉鎖損失引当金繰入額	3,500	—
その他	13	31
特別損失合計	1,213,836	4,843
税引前四半期純損失(△)	△1,503,842	△135,365
法人税、住民税及び事業税	7,559	12,694
法人税等調整額	42,831	△29,722
法人税等合計	50,390	△17,028
四半期純損失(△)	△1,554,232	△118,337

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失 (△)	△1,503,842	△135,365
減価償却費	581,506	536,157
減損損失	1,200,000	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	263	1,847
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△18,850	1,022
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	7,171	7,645
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	6,000	△1,750
店舗閉鎖損失引当金の増減額 (△は減少)	△2,100	△54,623
受取利息及び受取配当金	△6,284	△5,113
支払利息	107,774	98,172
有形固定資産除却損	14,732	17,250
有形固定資産売却損益 (△は益)	△9,052	364
投資有価証券売却損益 (△は益)	△287	△305
投資有価証券評価損益 (△は益)	8,573	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△6,363	△71,085
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△3,343	△56,142
未収入金の増減額 (△は増加)	—	△56,011
その他の資産の増減額 (△は増加)	△35,821	8,536
仕入債務の増減額 (△は減少)	△4,479	120,300
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△27,150	△36,609
未払金及び未払費用の増減額 (△は減少)	—	334,943
その他の負債の増減額 (△は減少)	△27,070	△16,980
小計	281,374	692,255
利息及び配当金の受取額	2,735	675
利息の支払額	△106,220	△98,828
法人税等の支払額	△12,647	△10,077
営業活動によるキャッシュ・フロー	165,241	584,024
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	△8,000
定期預金の払戻による収入	—	9,000
貸付けによる支出	△5,600	—
長期貸付金の回収による収入	23,017	22,656
投資有価証券の取得による支出	△4,553	△2,821
投資有価証券の売却による収入	20,263	3,761
有形固定資産の取得による支出	△370,516	△321,495
有形固定資産の売却による収入	66,253	9,263
有形固定資産の除却による支出	△505	△1,727
無形固定資産の取得による支出	△4,560	—
差入保証金の差入による支出	△36,430	△44,739
差入保証金の回収による収入	166,137	96,056
事業譲受による収入	—	20,129
その他	△285	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△146,779	△217,917

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	—	200,000
短期借入金の返済による支出	—	△200,000
長期借入れによる収入	700,000	750,000
長期借入金の返済による支出	△947,904	△1,083,995
社債の償還による支出	△75,000	△65,000
長期未払金の返済による支出	△45,696	△102,021
リース債務の返済による支出	—	△33,597
配当金の支払額	△12,885	△103
その他	△4,679	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△386,165	△534,717
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△367,702	△168,610
現金及び現金同等物の期首残高	1,020,062	535,816
現金及び現金同等物の四半期末残高	652,360	367,205

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。